

科目名	美術・工芸コンピュータ基礎演習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	池永 隆
授業の概要及びテーマ	デザインの分野で標準的なデジタルツールである Illustrator、Photoshop の基本操作を習得する。多くのデザインワークをより質の高いものにしていくために、それぞれのツールの特性を理解した上で、必要な操作等を具体的な課題制作を通じて習得する。解像度やアウトラインフォントの埋め込み、画像ファイルフォーマットなど、作品制作等に必要な基礎的な知識を身につける。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Adobe Illustrator の基礎的操作方法を習得する ・ Adobe Photoshop の基礎的操作方法を習得する ・ 各種出力手法を理解する ・ 解像度やカラーモード、フォント、画像ファイルフォーマット等の理解を深める
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 Illustrator の基本操作1 03 Illustrator の基本操作2 04 Illustrator の基本操作3 05 Illustrator の基本操作4 06 Illustrator の基本操作5 07 Illustrator の基本操作6 08 Illustrator の基本操作7 09 Photoshop の基本操作1 10 Photoshop の基本操作2 11 Photoshop の基本操作3 12 Photoshop の基本操作4 13 Photoshop の基本操作5 14 Photoshop と Illustrator の連携1 15 Photoshop と Illustrator の連携2
成績評価基準	各回で制作する課題によって評価する。 提出課題の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。 出席率が2/3を下回る場合には、単位を与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する
参考書・参考資料等	授業中に適時指示
用具	授業中に適時指示
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。習熟度に応じて個別に対応をします。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。授業の前半部分で重要な説明を行う事が多くなる構成となっています。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。十分注意して臨んでください。
実務経験を活かした授業	メーカーのデザイン部門で実務経験のある教員が、その経験を活かして Illustrator、Photoshop を実際に操作し演習を行う。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(描写) 〈美術・工芸学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	デッサン/人体(ヌード)ではモデルのクロッキー及び固定ポーズを観察し描きます。前期の課題を踏まえ、更に各自が主体的な課題を設定し取り組むことを前提とします。 着彩/組モチーフでは対象を捉えること、またそこから画面を構築する過程において、デッサン/人体と同様に特に美術・工芸学科の諸分野の造ること、表現することの前提となる様々な問題を見出し、描くことによってそれに取り組めます。
達成目標	描写表現手法による作品制作を通じて、「人体の構造と美」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的なことから素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。 ・人体の骨・筋構造を理解しプロポーシオン、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。 ・観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。 ・描写画材の応用と適切な使用ができる。 ・個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。 ・それぞれの物質の特徴を抽出し、的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができる。 ・多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。 <デッサン：人体> 01 クロッキー 02～08 作品制作 09 講評/作品提出 <着彩/組モチーフ> 10 課題・素材・技法等の説明・モチーフセッティング 11～14 作品制作 15 講評会/作品提出
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度(50%) ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢(制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ② 成果物(作品)の内容(50%) ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席/遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して(基礎造形実習Ⅰも含む)使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。)また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系(デザイン、描写、平面、立体、建築等)の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。
用具	授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力(描写)は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がないと具体的な成果につながりません。またスケッチなど目的に必要なかたちに含まれる線(ライン)を描く能力と、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要な不可欠となります。また、経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。また、授業においては時間・用具・制作姿勢について厳しく対応しますので事前説明と準備を厳守してください。
実務経験を活かしした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(造形) 〈美術・工芸学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	彫刻分野に於ける可塑性が特徴の素材『粘土』による制作を通して立体素材への知識や制作手法を習得し立体造形の基礎を学び、様々な要素について考え認識する。 <ul style="list-style-type: none"> 物理的制約の中で発想力を養い、量塊や構造の認識と空間性の意味を探る。幾何形態と自然形態に内在する構造や形の特性を理解し、美しい構成の作品を目指す。 対象(人体)の観察と描写を通してその成り立ちや特性を理解する。塑像による造形表現の魅力に触れる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な図形や図法の意味を理解できる。 平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。 有機物と人工物のもつ特徴を観察し対比と構成による的確な表現ができる。 粘土素材と用具を適切に扱う事ができる。 立体構成を理解し、造形表現の完成度を追求することができる。 課題の意図を理解し、繰り返し目的を追求することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。 <幾何形態と自然物の立体構成> 01 課題説明/講義/アイデアスケッチ 02 アイデアチェック/制作 03 制作 04 制作 05 講評/課題提出 <塑像> 06 課題説明/講義/スケッチ 07 塑造制作、心棒の制作/粘土荒付け 08～13 塑造制作 14 仕上げ 15 講評/清掃
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度(50%) <ul style="list-style-type: none"> 受講、制作の準備ができていた。 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 適切な質疑応答ができた。 制作姿勢(制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ② 成果物(作品)の内容(50%) <ul style="list-style-type: none"> 課題の条件を満たしている。 指導を成果に生かすことができた。 十分な考察と制作をした。 プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席/遅刻の回数、提出締め切りの超過或未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して(基礎造形実習Ⅰも含む)使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。)また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系(描写、平面、立体等)の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。
用具	授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各課題は事前準備をして取り組んでください。初めて扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知る必要があります。自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。
実務経験を活かしした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(素形材) 〈美術・工芸学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	<p>工芸に於ける素形材の意味を一例であるが立体表現における基礎的な実習により理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 線材・面材を利用した立体における空間構成およびその機能について 図面(2次元)から起こす石膏素材による回転形態(3次元)について 金属素材を用いた線材・面材使用による構造と機能、ガラス素材による表現手法の基礎について
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。 課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。 制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。 制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。</p> <p><ヤジロバエ></p> <ol style="list-style-type: none"> 01 課題説明/講義/スケッチ 02 スケッチ、試作 03・04 本制作 05 プレゼンテーション、講評 <p><回転体></p> <ol style="list-style-type: none"> 06 課題説明/アイディアスケッチ 07 挽型作成/鳥目箱設置 08・09 石膏挽き 10 仕上げ/講評 <p><複合素材課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 11 素材・技法説明/鍛金制作 12 素材・技法説明/鑄金制作 13 素材・技法説明/ガラス制作 14 各部材仕上げ 15 組立・小テスト・講評
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ① 受講姿勢、理解度(50%) <ul style="list-style-type: none"> 受講、制作の準備ができていた。 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 適切な質疑応答ができた。 制作姿勢(制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ② 成果物(作品)の内容(50%) <ul style="list-style-type: none"> 課題の条件を満たしている。 指導を成果に生かすことができた。 十分な考察と制作をした。 プレゼンテーション <p>以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席/遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。</p>
出席・遅刻の基準	<p>出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。 これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。 また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。</p>
テキスト(教科書)	各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。
参考書・参考資料等	<p>課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して(基礎造形実習Ⅰも含む)使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。)</p> <p>また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系(デザイン、描写、平面、立体、建築等)の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。</p>
用具	各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらい場合があります。(各課題により異なります。)
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	造形の基礎力は様々なアイデアと素材・表現方法で培われているものです。発想力、スケッチ力を含め基本的な素形材の概念を理解することは今後の制作・研究の展開において役立つので積極的な意図を持って受講してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(デザイン) 〈美術・工芸学科〉
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	デザインを学ぶ者において構成は、制作意図やその手法、工夫などを成果として表現するための根底にあるものである。そこで、構成をより意識するために実験的な混合表現手法を利用した作品制作を行うことと、デジタル一眼カメラでの撮影により、画面構成の基礎知識を習得する。 <カラーズ> 画面構成とは、単にバランスのとれた画面を作り上げることのみが目的ではない。目的の設定も含め、画面を構成すること・異素材へのアプローチ・すでに表出されたイメージの再構成と、そのフレーミングへの意識を目標に授業を展開する。 <写真/フレームワーク> 基本的なデジタル一眼レフの操作やライティングを通して写真撮影の基礎を習得する。またデジタル写真の保存処理方法を学ぶ。
達成目標	<カラーズ> ・ 画面構成に対する意識を持ち、様々な素材を用いて実験的な混合表現手法を検討・実践することができる。 <写真/フレームワーク> ・ カメラの基本的操作や適切なライティングができ、自身の作品や作品制作に必要なモチーフの撮影を行うことができる。 ・ 撮影した記録媒体を PC にて処理することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<カラーズ> 01 ガイダンス 02~09 資料収集/カラーズ制作 10 講評会 <写真/フレームワーク> 11 レクチャー・デジタル一眼レフの基本操作講義・セッティングとライティング基礎講義 12 撮影1/立体モチーフの撮影・撮影2/立体モチーフの撮影 13 撮影3/立体モチーフの撮影、小講評・撮影4/平面モチーフの撮影 14 撮影5/平面モチーフの撮影・撮影6/平面モチーフの撮影、小講評 15 ブラッシュアップ、メディアへの保存・講評
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度 (50%) ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢(制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ② 成果物(作品)の内容 (50%) ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席/遅刻の回数、提出締め切りの超過或未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。 これ以外は出席と見なしません。ただし、資料収集のためにアトリエを退室することに、教員の許可をとれば、その限りではありません。 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。 また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編(CGARTS 協会)3,150円
用具	授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各課題においてデザインや美術・工芸での幅広い思考展開に必要なのは疑問の余地がありません。描く・塗る作業のみではなく「考える」「想像」する要素から始まることを体感し、視覚化することを大いに体験して欲しいと思っています。これまで「描く」「作る」といった課題が苦手であった学生も、気持ちを新たに臨んで下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸コンピュータ演習
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	森本 康平
授業の概要及びテーマ	この授業は前期の美術・工芸コンピュータ基礎演習 I からの応用です。 前期で基本操作を学んだ Illustrator と Photoshop をベースに今後の作品制作で使える基礎技術を確実なものにします。それらのデザインツールを活用したポートフォリオの作成、そのデータを活用した PowerPoint のプレゼンテーションの資料作成、さらに 3D プリンターやレーザーカッター等のデジタルファブリケーションを活用するための基本スキルを身につけます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Illustrator、Photoshop、PowerPoint の基礎的・操作な操作ができる。 ・ Illustrator、Photoshop を用いてポートフォリオの作成ができる。 ・ PowerPoint を利用した視覚的表現効果を持つプレゼンテーション資料の作成ができる。 ・ デジタルファブリケーションの活用ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 Illustrator によるさまざまな描画手法 1 03 Illustrator によるさまざまな描画手法 2 04 Illustrator によるさまざまな描画手法 3 05 Photoshop による画像編集 1 06 Photoshop による画像編集 2 07 Illustrator と Photoshop の連携 1 08 Illustrator と Photoshop の連携 2 09 Illustrator によるポートフォリオ作成 1 10 Illustrator によるポートフォリオ作成 2 11 PowerPoint による効果的なプレゼンテーション 12 デジタルファブリケーション連携 1 13 デジタルファブリケーション連携 2 14 デジタルファブリケーション連携 3 15 デジタルファブリケーション連携 4
成績評価基準	各回で制作する課題によって評価する。 提出課題の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。 出席率が 2/3 を下回る場合には、単位を与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する。
参考書・参考資料等	
用具	授業中に適時指示
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。 操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。 授業の前半部分で重要な説明を行う事が多くなる構成となっています。 そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。十分注意して臨んでください。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	8
担当教員	◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、ミーヨン
授業の概要及びテーマ	アナログ技術とデジタル技術を横断的に学習し、視覚メディアの時代的な変遷と、情報が物質化する経過をたどり、作品を制作する方法論そのものを考察します。 絵画・版画・写真それぞれの表現に対する基礎的な素材と技法を知り、横断的かつ実験的な混合表現手法と描画手法を組み合わせた作品を作成し、新たな作品制作の可能性について模索します。 成果物としては、35mm フィルムでアナログ写真を撮影し、現像の技術を学び写真作品として完成させます。その後、撮影した写真はスキャンしてパソコンに取り込み、デジタル加工した後、シルクスクリーンの版下として出力して支持体に印刷します。それらを素材とし、再構成してコラージュ作品として完成させます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを理解し、柔軟な発想で制作することができる。 ・ 表象（イメージ）と物質（素材）の関係について考察することができる。 ・ 用具や機器の正しい取り扱い方を理解し、作業を安全に行うことができる
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス・素材研究・資料収集・写真撮影講義及び撮影実践</p> <p>02～04 写真撮影</p> <p>05～10 写真紙焼き講義及び実践。シルクスクリーン版下制作（デジタル加工表現）と、製版と印刷の講義及び実践・ドローイング・エスキース</p> <p>11～14 写真・シルクスクリーンの各メディアからの制作物を素材とし、コラージュ制作・発表準備</p> <p>15 講評会</p> <p>* 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。</p>
成績評価基準	授業参加態度・制作姿勢 40%、提出作品・レポート等の内容 60%を基本に、総合的に判断します。 なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	授業時に適宜指示する。
用具	材料費として4,000円程度必要となる場合があります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義は、物質のない光景から徐々に物質化していく工程を、概念的に俯瞰する授業でもある。履修学生には、その課題内容と将来関わるであろう自主制作との繋がりを考察しながら受講することを望む。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎小林花子、長谷川克義、新村秀人
授業の概要及びテーマ	彫刻の基本軸の一つである『塑造』について作品制作を通して理解するとともに、『型取り』を行い、各素材へ置き換えるための一連の技術を学ぶことで、基礎的な技法と素材の特性や作品との関連性について理解し、作品による表現へと結びつける力を培います。 成果物は、「塑造による原型制作」から「石膏雌型取り」による粘土（テラコッタ）と金属（鋳物）による複合的な造形表現を行い、その表現の可能性と広がりを経験します。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題テーマを理解し、立体作品のための柔軟な発想力を向上させることができる。 ・ 塑造と型取、素材への置き換えを行う一連の制作を各自の表現に関連づけて理解することができる。 ・ 技法や素材の特性について観察と研究を能動的に行うことができる。 ・ 正しく用具や機器の取り扱い方を理解し、安全な作業を実践することができる。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力／構想力を養う授業
授業計画	01 授業概要講義／課題説明／アイデアスケッチ 02 資料収集／アイデア・制作プランチェック・決定 03・04 作品制作（塑造） 05・06 作品制作（塑造仕上げ） 07・08 石膏型取り（雌型制作） 09・10 作品制作（雄型制作） 11～14 作品制作発表準備（仕上げ）・発表準備 15 講評／作品提出 ＊ 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	授業理解度・制作姿勢 40%、成果物の内容 60%を基本に、総合的に判断します。 なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等	授業時に適宜指示およびプリント等を配付する
用具	スケッチブックや鉛筆描写具等、準備物を授業にて適宜指示します。 また、作品制作時における材料費 4,000 円程度が必要になる場合があります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業内容をまとめファイリングすること。 安全に作業をするために時間は厳守し、適切な服装で集中して取り組むこと。 素材の魅力を引き出すための努力を積極的に行うこと。 原則として全授業の出席を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎中村和宏、菅野 靖、相原健作、手銭吾郎
授業の概要及びテーマ	<p>工芸素材として金属（鍛金・彫金）とガラスの基礎的な技法と各素材の特性を理解し、各自の作品に対する応用力を養いつつ、各自のテーマに沿った統一感あるテーブルウェアを制作します。</p> <p><彫金> 彫金の基礎技法を理解しながら装飾的な造形表現を行います。また、暮らしの道具をデザインする生活空間の思考から他領域の工芸品との相互性についても柔軟な視点を深めます。</p> <p><鍛金> 鍛金技法に於ける金属の展延性や表面処理などの基本的な技術と素材の特性を理解し、各自の作品に対する造形表現を行い、応用力を養います。</p> <p><ガラス> ガラス素材を深く理解するための基礎技法を身に着けます。そのうえで日々の暮らしにおける生活工芸（クラフト）やライフスタイルを踏まえた「うつわ」を考えデザインし造形表現を行います。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題内容を理解し柔軟な発想力を向上させることができる。 ・ 成果物（作品など）に対してのプレゼンテーションを実践し完成することができる。 ・ 造形制作に必要な素材と技法の関連性を理解・実践することができる。 ・ 正しく用具や機器の取り扱い方を理解し正しく安全な作業を実践することができる。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力／構想力を養う授業
授業計画	<p><彫金></p> <p>01 課題説明 / デザインおよび作業工程の確認 02 工具・機器と金属材料の説明 / デザインチェック・決定 / 作品制作 03 作品制作 / 技法・素材の研究 04 作品制作 / 仕上げ 05 作品提出 / 講評（メッキ仕上げ選択は業者発注）</p> <p><ガラス></p> <p>06 課題説明 / 道具の説明及びサンプル制作 07 デザイン案決定/作品制作 08 作品制作/素材と温度関係の研究 09 作品制作 / 仕上げ 10 作品提出 / 講評</p> <p><鍛金></p> <p>11 課題説明 / デザインの検討 12 工具・機器と金属材料の説明 / デザインチェック・決定/作品制作 13 作品制作 / 技法素材の研究 14 作品制作 / 仕上げ 15 作品提出 / 講評</p> <p>* 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。</p>
成績評価基準	<p>受講姿勢 40%、プレゼンテーションおよび発表の内容 60%を基本に、総合的に判断します。</p> <p>なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。プレゼンテーションが発表時にできない場合は、最終評価から減点します。</p>
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	近代から現代にかける実在作品や諸立体作家集を参考資料として使用する。
用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料費として4,000円程度必要になる場合があります。 ・ 安全のための作業服等個人用具が必要となります。 <p>（上記事項は授業ガイダンス時に説明します）</p>
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>下記の項目に留意し行動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として全回出席を求めます。 ・ 授業のまとめをファイルすること。 ・ プランニングから作品制作の完成までの過程は、高い集中力と能動的な姿勢を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（複合）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦夫、菅野 靖、小林花子、中村和宏、◎長谷川克義、相原健作、新村秀人、手銭吾郎、ミーヨン
授業の概要及びテーマ	美術・工芸基礎演習Ⅰ<美術・彫刻・工芸>における課題制作研究に共通する資料収集やスケッチワークを通して、表現するための工程に関する基礎を学ぶと共に、形と素材の関連性や技法研究からその手法や技法を習得する。また、発表（プレゼンテーション）時において自作品の研究テーマを明確に説明することで、他作品との比較により客観的視点から作品を考察することから「作品を観せる」意識を培う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を制作するための事前の情報収集および調査をすることができる。 ・ アイデアスケッチ・ドローイング・エスキース等を通して、作品を展開することができる。 ・ 素材と技術の関係から制作工程の意義を理解することができる。 ・ 成果物（作品）を、各々が必要とする媒体を用いてプレゼンテーションおよび発表することができる。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力/造形力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	<p>美術・工芸基礎演習Ⅰの他の授業と連携するため各授業ガイダンス時に授業計画をより詳しく説明する。</p> <p><絵画></p> <p>01 素材研究・資料収集 02 ドローイング 03 ドローイング・エスキース 04 エスキース 05 発表・プレゼンテーション</p> <p><彫刻></p> <p>06 アイデアスケッチ・資料収集 07 エスキース・制作プラン検討 08 制作プラン確認 09 プレゼンテーション資料作成 10 発表・プレゼンテーション</p> <p><工芸></p> <p>11 資料収集 12 各領域における素材や技法研究・考察 13 プレゼンボード制作 14 プレゼンボード制作 15 発表・プレゼンテーション</p> <p>* 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。</p>
成績評価基準	受講姿勢 40%、プレゼンテーションおよび発表の内容 60%。これらを総合的に判断し評価します。なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。プレゼンテーションが発表時にできない場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等	参考資料として適宜配付または提示する。
用具	クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	どのような形態の作品制作にも必要な資料収集能力やスケッチ力、プレゼン力を高められるよう取り組んでください。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、長谷川克義、下山直紀、杉原倫子、手銭吾郎、中安 麗、藪内公美
授業の概要及びテーマ	各自選択したグループ(美術表現・クラフトデザイン)に属しながら、制作課題等を通してその手法を理解し、形と素材の関連性やもとの関係を考察する。また、表現するための基礎を学ぶ。 ・ 美術の基礎的な素材と手法を理解し、作品制作を行うことで、それぞれの表現における特徴や要素について学び、基礎技法の習得を目指す。 ・ 工芸分野における鍛金、彫金、鋳金、ガラスから各自の指向により2領域を選択し、その領域に関する素材や基礎技法について学ぶ。また、工芸の大きな枠組みの中で水平的視点を持つため、工芸における各種素材や技法についての知識も身につける。
達成目標	・ 課題作品を制作する上で求められるスケッチ力・発想力・展開力を発揮し、成果として十分応えることができる。 ・ 素材と技術の関係をイメージし、基礎的な各表現技術を習得することで、完成までの工程を計画し実践することができる。 ・ 課題において各領域で使用する素材の特質や特性を理解し、形状と技法の関連性を体得して制作することができる。 ・ 授業で指導された内容を的確に記録・習得し、安全に作業することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構想力を養う授業
授業計画	事前に美術表現グループとクラフトデザイングループの2グループ(定員制)に分かれる。 <美術表現グループ> 01 ガイダンス/モチーフセット、デッサン準備 02~06 木炭デッサン 07 講評会 この後、【絵画】【版画】【彫刻】領域の課題を2つ、11日間ずつ行います。 【第1課題】 08 概要講義/スケッチ・エスキース 09~17 作品制作 18 講評会 【第2課題】 19 概要講義/スケッチ・エスキース 20~28 作品制作 29 講評会 【共通】 30 全体講評会、プレゼンテーション、作品提出 <クラフトデザイングループ> 課題制作に関しては2領域を選択する。 01 ガイダンス/クラフトデザイン概論 【第1課題】 02 レクチャー、スケッチ・デッサン 03~06 エスキース、実材による制作、中間講評 07~12 実材による制作 13 講評 【工芸における特別技法研究】 14 レクチャー 15~16 実材による制作 17~18 実材による制作、講評 【第2課題】 19 レクチャー、スケッチ・デッサン 20~23 エスキース、実材による制作、中間講評 24~29 実材による制作 30 講評 * 課題数や課題内容はコースごとに計画されます。また、演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	課題や制作への理解度と受講姿勢 40%、プレゼンテーションおよび提出作品の内容 60%。これらを総合的に判断し評価します。 なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料として適宜配付または提示。
用具	クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。 材料費や用具として10,000円程度必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	美術や工芸における基礎的な素材・技法を把握し、表現の特徴を理解することは、専門領域を学ぶ以前に重要なことです。しっかりと取り組み修得してください。また、授業で与えられる情報に満足せず、各自の意思で情報収集や展覧会の鑑賞などを積極的に行ってください。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸材料学
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎長谷川克義、菅野 靖、菊池加代子、中村和宏、秋本貴透、井波 純、岩崎靖彦、楠八重有紗、平賀 仁、森田 力
授業の概要及び テーマ	絵画・彫刻・工芸分野における材料の種類や特性に関して、各分野の専門家により講義を行う。そして、今後の創作活動に対する一助とする。 テーマ：「描画材の種類と特性」「版画材の種類と特性」「木および樹脂の種類と特性」「染織素材の種類と特性」「金属の種類と特性」「ガラスの種類と特性」
達成目標	・各種材料の基本的特徴と用途や加工方法等が理解できる。 ・自らが作品等を制作する際、効果的な材料選択ができるような素養を身につけることができる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	構想力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンスおよび概論 <長谷川> 02 金属の種類と特性(鍛金)<長谷川> 03 樹脂の種類と特性(漆)<井波> 04 樹脂の種類と特性<平賀> 05 金属の種類と特性(彫金)<菅野> 06 版画材の種類と特性<森田> 07 描画材の種類と特性<秋本> 08 染織素材の種類と特性<菊池> 09 染織素材の種類と特性<菊池> 10 木の種類と特性<岩崎> 11 木の種類と特性<岩崎> 12 描画材の種類と特性(フレスコ)<楠八重> 13 描画材の種類と特性(モザイク)<楠八重> 14 ガラスの種類と特性<中村> 15 金属の種類と特性(鋳金)<長谷川> * 但し、日程については変更になる場合(土曜日開講となる回)があります。また、担当ごとに小テストやレポート課題を課す場合があります。
成績評価基準	受講姿勢および積極性 40%、レポート等課題 60%。これらを総合的に判断し評価する。 なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料として授業時にプリントを配付する。また、授業で適宜紹介する。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	作品を制作するということは、その素材を知らなければ成り立たないと言っても過言ではありません。美術と工芸を分け隔てること無く素材に対する知識を深めてください。また、原則として全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。
実務経験を活かし た授業	

科目名	古美術研究
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎長谷川克義、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、伊藤 哲、和田正泰
授業の概要及びテーマ	美術教育において重要な一分野である古美術研究として、奈良、京都を中心に存在する飛鳥時代以降の彫刻・工芸・絵画・建造物等、日本古来の優れた美術品の鑑賞研究を行う。これらの研究を通して日本の美術・工芸作品についての理解を深め、その表現技法と文化的価値に対する考察を行う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本古来の優れた美術品について事前学習、資料収集および実際の鑑賞を通して、その理解を深めることができる。 ・ 美術・工芸作品で使用される素材および技法について考察し、まとめることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	<p>01~02 ガイダンス等 03~08 事前学習：国宝等の彫刻（仏像等） 09~12 事前学習：国宝等の絵画（襖絵、障壁画等） 13~30 実地による国宝・重要文化財等の鑑賞研究：彫刻・工芸・絵画・建造物</p> <p>*ガイダンスや事前学習の日程は適宜パレットでお知らせします。</p>
成績評価基準	鑑賞姿勢および授業への積極性 50%、鑑賞研究報告書の内容 50%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	ガイダンス、事前学習は履修ガイド同様。
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料を適宜配付または提示。
用具	別途指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>日本古来の優れた美術品についての理解を深め、美術品と表現素材および技法について考察を行うことのできるまたとない機会です。事前の学習および資料収集等しっかりと取り組み多くのものを吸収してください。</p> <p>この授業は、4泊5日で奈良・京都を訪れ、現地での研修を行います。実施は3月中旬から下旬を予定していますが、詳細は事前授業やパレットにて連絡します。</p> <p>実地研修の費用については入学時に説明をしていますが、食事や宿泊等に必要費用として約 50,000 円を2回に分けて積み立てます。その他必要なものについては別途指示します。</p>
実務経験を活かした授業	

科目名	表示図法
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	齋藤 博
授業の概要及び テーマ	立体や平面を問わず、造形における創作思想の可視化には、形態や空間に関する諸事の精緻な把握を必要とします。造形に関する基本的図学及び図面制作の基礎力を知見・習得し、造形表現とその理解力を深めます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己が構想した造形を他者に制作を依頼する際に適切な形状線、寸法引出線等の作図の考え方・知識・技能を体得、これを説明できる。 ・ 幾何学図形の作図法及び平行投影並びに透視投影図法による製図基礎を体得し、かつこれを表現できる。 ・ 造形表現に不可欠な幾何学知識の体得。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は、テキストに基づく受講者による図面制作を重視する。 ・ 各週の成果物は、講義終了後または次週の講義開始時に提出。 <ol style="list-style-type: none"> 01 ガイダンスと製図基礎 <ul style="list-style-type: none"> (1) 作図用具とその使い方 (2) 「線」の引き方 02 前週の(2)「線」の継続練習と成果物提出 03 平面図学1：直線・角・円周に関する作図 04 平面図学2：多角形の作図、円錐曲線 05 投影1：投影法、投影の基礎 06 投影2：面の投影、副投影面 07 立体図学1：立体図形、多面体 08 立体図学2：曲面体、曲面 09 立体の切断・相貫・展開 10 平行投影法とその応用 11 製図に関する決まりごと 12 別途提示する物品の寸法の実測と「スケッチ」作成 …3週継続 13 「組立状態の全体図」の作図 14 13週の成果物を基にした「部品図」の作図 15 前週の継続と提出及び講評
成績評価基準	成果物の有無、内容70%程度、授業姿勢30%程度として総合評価します。出席率が2/3を下回る場合は単位を与えられません。遅刻は、3回で1回の欠席扱いとします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	「わかりやすい図学と製図」 住野和男著 オーム社 2,600円+税：要購入
参考書・参考資料等	
用具	直定規、三角定規、コンパス、デバイダ、鉛筆(B、HB)、消しゴム、用紙固定用のドラフティングテープ
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキストは毎週使用。本学売店等で事前に購入すること。 ・ 作図用紙は、当面、各週に必要な枚数を教員が用意します(失敗分は受講者負担)。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術・工芸・デザイン分析
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎中村和宏、浅賀 武、加藤 慶、扇原康成、日野明子、溝川誠司
授業の概要及びテーマ	<p>本講義は主に美術・工芸学科の学生を対象とし、基礎から専門科目で培う造形能力を社会での様々な職種・活動において、また広くデザイン分野の業態とどの様に関連づけ有効に発揮することが出来るか、それぞれ分野で活躍する講師が実際の活動する視点から分析し講義を行います。これらから自身の進路及びキャリアへの視野を拡げ、現代社会でボーダレスになりつつある美術・工芸・デザインの領域の境界線上での造形表現やデザイン思考・目的の同意性などを理解することで、ビジュアル系、プロダクト系の企業・事務所、作家、起業等へのミチスジと可能性を考察することを目的とします。授業は、担当教員の5名がオムニバスで担当します。</p> <p>テーマとして</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 成果物及び企画・デザイン事例を提示し、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「目的・表現の的確性・効果／評価の分析」 ・ 「社会性、生業観」 ・ 「造形やデザイン意図の一般化」 ・ 「美術・工芸・デザイン各分野の表現、制作プロセスの共通性」 ・ 「成果物の流通と販売」 <p>等から各講師が設定します。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各分野の創作物・製品のシステム、分析・評価に関する理解を深めることができる。 (2) 創作・デザイン分野での発注者と受注者との関係と諸事象を認識し、今後の自らの進路にどの様に生かせるかを考察できる。 (3) 各分野特有の、企画・提案・制作・流通・販売までのプロセスを理解し説明できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロダクトデザインはPDと略、ビジュアルデザインはVDと略 01 5/11 (中村) 【授業全体ガイダンス】各専門領域の能力を如何に社会で活かせるか 02 5/18 (溝川) 【身近にあるVDやメディアを紹介(課題提示)】 03 5/25 (溝川) 【職業としてのVDと業界の構造】 04 6/1 (溝川) 【VDの制作プロセスとその姿勢(課題提出)】 05 6/8 (日野) 【流通に関わる仕事のいろいろ】 06 6/15 (日野) 【製造現場に関わる仕事のいろいろ】 07 6/22 (日野) 【工芸・デザインの立ち位置を年表から俯瞰する】 08 6/29 (扇原) 【大学から社会へ1】 09 7/6 (扇原) 【大学から社会へ2】 10 7/13 (扇原) 【大学から社会へ3】 11 7/20 (浅賀) 【PDの修得に大切なこと】 12 7/27 (浅賀) 【PDの歴史から読み取れること(グッドデザイン賞を例に)】 13 8/3 (浅賀) 【PDにおけるスキルの掘下げ】 14 8/17 (加藤) 【ギャラリーショップというオルタナティブスペース】 15 8/24 (加藤) 【自分の人生となったギャラリーショップ運営・表現】
成績評価基準	<p>評価はレポート提出(担当教員により提出課題の場合あり)70%</p> <p>授業での能動的姿勢(各教員から説明の場合あり)30%</p> <p>欠席・遅刻(公欠での場合は除く)は評価点から減点します</p>
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜、担当教員から配付する。
参考書・参考資料等	適宜、事前に担当教員から指示があります。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>分野が違うことで受講姿勢を変えない様に要望します。</p> <p>大学卒業後の将来は未だ確定していませんが、3年次以降の取り組みの成果は其々の人生の針路を決定付けていきます。また卒業後において社会ではその都度新たな知識と応用力を身に付けることが求められます。大学で修得した専門能力を如何に応用・展開するかが、社会での活動を多角的に押し広げることに繋がります。本授業では各講師の「現場と実際」を知ること、受講生に「見通す力」を身に付けてほしいと思います。また本科目は教職課程で必修となりますので修得には留意してください。</p>
実務経験を活かした授業	

科目名	美術工芸史
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	林 克彦
授業の概要及び テーマ	日本およびアジアの古代から現代に渡る工芸作品について、スライド等を使って鑑賞しながら工芸の歴史を振り返る。その中で、工芸の多様性を知り、また、それぞれの工芸作品が生まれた歴史的な背景について考える。
達成目標	様々な工芸作品が生まれた歴史的背景（素材、技術、文化、生活など）を理解することができる。また、「工芸とは何か」「ものを作ることは何か」の理解を深めることができる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 美術工芸史への入り口 ～ガイダンス～ 02 人類の進化と原始美術 ～槍先形尖頭器と縄文土器～ 03 金属器の伝来と発達 ～銅鐸と弥生時代の工芸～ 04 正倉院の世界 ～工芸に見る奈良時代の日本と世界～ 05 仏教と工芸 ～宗教と工芸～ 06 唐物礼賛 ～日本人が憧れた東アジアの工芸～ 07 茶の湯と工芸 ～日本の工芸美～ 08 古染付と伊万里 ～古染付日本へ、伊万里世界へ～ 09 博物誌と工芸 ～科学的知と工芸～ 10 万国博覧会の世紀 ～明治の技巧的作品～ 11 柳宗悦と民藝運動 ～民衆的工芸美の発見～ 12 琉球・沖縄の工芸 ～もう一つの日本の工芸～ 13 伝統工芸とクラフト ～現代日本工芸の二つの潮流～ 14 日本各地の伝統工芸 ～地域と工芸～ 15 工芸から Kogei へ ～工芸の現在と未来～
成績評価基準	出席が2/3以上(10回以上出席)を満たす履修者に対してのみ単位付与を検討する。受講態度50%、レポート課題50%。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する。
参考書・参考資料等	授業時に適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	工芸作品は、様々な歴史的、技術的、文化的脈絡を理解することにより、作品そのものの理解がより深まります。ものを見て素直に感じることも重要ですが、その作品の背景にも思いを巡らせて下さい。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術表現演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、小林花子、塩谷 亮、嶋崎達哉
授業の概要及びテーマ	現代作家の作品鑑賞のため、東京の美術館・ギャラリーツアーを行う。 絵画と彫刻の古典技法を学習し、それぞれの技法の古来よりの成り立ちを俯瞰し、時代背景を鑑みつつ考察する。これらの手法による作品制作を通じ、基礎技法を修得することのみではなく、それぞれの技法から、受け継がれてきた概念を含めて学習する。 また、社会におけるアーティストの役割についてリサーチを通じて考察し、社会と美術との接点についての理解を深め、発表する。その考察をふまえ、各自がアーティストとして活動するためのワークショップを、夏休みを通して企画・立案する。 「伝えるためのツール」としてのポートフォリオ制作を、後期美術表現演習Ⅱも通じて通年で制作する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画または彫刻（選択制）の古典技法とその基礎的な概念を理解し、作品を制作することができる。 ・ アーティストの社会的役割について考察することができる。 ・ 工房およびアトリエにある機材を、安全に正しく使用することができる。 ・ 美術館での鑑賞を通じ、場と作品との関係について理解を深めることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス/課題説明/ポートフォリオ作成の説明 02 アーティストが行う社会活動について 03~07 古典技法研究・課題制作。テンペラと古典彫刻から選択。それぞれ非常勤講師による講義および実技指導。 08~10 担当教員による美術論レクチャー 11~12 アーティストが行う社会活動についてのリサーチ発表会 13 自身が行うワークショップの企画書作成の説明 14~15 東京美術館見学ツアーに振り替え ※非常勤講師の都合により、授業回を変更する場合がある。
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 40%、成果物の内容とプレゼンテーション 60%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	材料費が4,000円程度必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業内容の理解と積極的な参加を求める。
実務経験を活かしした授業	

科目名	美術表現演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎遠藤良太郎、岡谷敦魚、小林花子、新村秀人
授業の概要及びテーマ	この授業は美術分野における表現の実践と社会との関係を主題とし、企画の立案等とともに実地のリサーチや、具体的な展示空間に作品を設置する課題に取り組み研究するものである。まず美術表現演習Ⅰにおいて社会における表現者の役割という観点からアーティストの実践活動についてリサーチしたものを基に、自らの企画を立案し発表する。合わせて学外見学を実施し具体的な社会の中における美術表現活動、美術館やギャラリーの取り組みについてリサーチする。これらの研究を通して社会における美術表現の実践の諸相と、その役割について理解を深める。続いて作品を提示（鑑賞者、社会との関係を構築する場）する際の具体的な設置や方法、効果などについてグループワークで実践的に検証する。これは、設置された作品が、どのようにしたら環境や空間と融合して表現として成立するのか、ひいては美術表現の前提となる作品、作者、鑑賞者とそれらを包含する社会との関係性について問うものである。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作/研究を通して社会との関係性を認識し、制作に反映させることが出来る。 ・ 作品の場所との関係性を考慮し、表現の提示の質を高めることが出来る。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01、02、 ガイダンス、企画課題発表 03、04、 美術館見学 ※授業日を振りかえて行う予定 05～15、 インスタレーション研究、グループセッション、制作、制作発表
成績評価基準	研究及び作品の内容 70% 成果等の発表 30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	材料費等が3,000円程度必要となる場合がある。 それぞれ必要なものを準備、適宜指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	表現者/研究者として自覚し取り組むこと。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	クラフトデザイン演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎中村和宏、菅野 靖、長谷川克義、井上 剛、齋藤直子
授業の概要及び テーマ	産業や生活文化を考え社会的思考を育むと共に、専門的な視点において創造的造形と表現を展開するための起点と捉える。 そのため暮らしに根差したクラフト領域の基本的な知識を習学し、工芸における伝統と革新を理解することを目的とする。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題内容を解釈し各自の発想を提案することができる。 ・ 素材及び表現の周辺知識を理解しながら柔軟な表現に繋げることができる。 ・ 目的に応じた、研究成果のプレゼンテーションができる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス/課題説明 02 「工芸論」：日本の伝統文化における講義 03～07 共通課題説明・プレゼンボードの制作 08～09 各領域での装飾技法の研究 10～13 制作 14 学生主体による計画及び発表 15 プレゼンボード発表・総評 ・「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動の可能性があります。
成績評価基準	成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢 40% 成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜指示をする。
参考書・参考資料等	適宜指示をする。
用具	適宜指示をする。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	クラフト領域での素材・技法・表現を学び、様々な審美眼を広げながら各自の未来を開拓する起点として学習する事。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	クラフトデザイン演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎菅野 靖、長谷川克義、中村和宏、石渡雅史、気賀澤 雅人
授業の概要及びテーマ	クラフトデザイン演習Ⅰを踏まえ、素材と造形によって見出される価値を発見すると共に、現代に提案する工芸表現を探る。 暮らしと共に発展した「工芸」を知るため、我が国の伝統や現代における表現の動向を考察しながら情報収集を行い、社会において求められるクラフトデザインとその実践的方法について理解を深める。また、これらの能力を今後の方向性に活かすことも目的の一つである。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門領域のみならず、各種素材や技法と国際的視野で社会との繋がりを持てる発想ができる。 ・ 各自の研究領域にて明確なテーマを構築し、自身の方向性を探ることができる。 ・ 目標の研究成果としてポートフォリオの制作と発表。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス/課題説明 02 「工芸論」：日本の伝統文化についての講義 03～06 ポートフォリオのテーマ設定、情報収集 07～09 研究及び情報収集 10～14 ポートフォリオ作成 15 成果発表(プレゼンテーション) ・ 「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動の可能性が有ります。
成績評価基準	成果の発表(成果物及びプレゼンテーション)60%、受講姿勢40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	適宜指示する。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は進路を見据えたものとなります。各自の指向を絡めた柔軟な発想で問題点を解決し、卒業研究および卒業後について考える糧とする。
実務経験を活かした授業	

科目名	ゼミ I 〈美術・工芸学科〉
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、長谷川克義、手銭吾郎
授業の概要及びテーマ	美術・工芸学科に於ける各分野の研究室を選択し、より専門性を志向した内容の課題制作・研究を行う。 各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門領域の基本的な素材・技法・表現手法などの課題を通じて理解習得し、その方法による作品制作においての概念基盤を育む。 ・ゼミ選択はその研究・制作の性格上工房等を主に使用するが、工房における履修環境及び作業の安全性を考慮し、受講人数の制限を行うことがある。希望調査を行い、人数の隔たりが起きた場合、希望内容（選択理由）や今までの実習・演習内容（成績や実習姿勢）を検討し対応する。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。
達成目標	・各専門分野（領域）の基本的概念を理解することができる。 ・表現方法を得るための材料の理解とそれに伴う手法の基礎技法（専門的制作プロセス）を理解・習得することができる。 ・課題において求められる発想力や情報収集力、目的別分析選択力など各能力を習得することができる。 ・各自が専門分野での創作に対して考察することができる。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	授業内容・進捗の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。 <絵画領域>：遠藤 01 ゼミ進行等概説 02~15 作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等） それぞれが設定した研究（作品制作）のために必要なプログラムを計画し実行する。 ・期末に作品発表のためのグループ展があります。 ・学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。 ・スケジュール詳細は初回に説明します。 <版画領域>：岡谷 01 ガイダンス 02~15 版種技法研究、およびレクチャー（現代美術の資料読み合わせ、遠藤ゼミとの合同授業） ・現代美術の文献講読により、現在のアートに関わる状況を俯瞰しつつ自主制作を行います。 ・遠藤ゼミと合同で、東京美術館ツアーを行います。 <彫金領域（金属工芸）>：菅野：課題【基礎技法の理解とその造形】 01 概説および道具製作工程説明 02~04 彫り課題（鑿、伝統技法の理解） 05~06 シルバーリング制作（金属の溶解、成形、接合） 07~14 高肉打ち出し→ジュエリーへの展開 15 総括 <彫刻領域>：小林：課題【具象表現：モデリング／カービング】 01 授業概要講義／課題説明／材料、道具の特性、取り扱い方法講義／アイデアスケッチ 02 作品プレゼンテーション／塑像心棒制作、荒付け 03~07 塑像制作 08~12 木彫制作 13~14 修正・仕上げ／展示計画 15 講評・プレゼンテーション <ガラス領域>：中村 01 概要講義・課題説明（宙吹き技法による器の制作） 02 資料収集・アイデアスケッチ 03~05 作品制作 06 作品制作・講評・作品提出 07 課題説明（パートドヴェール技法による作品制作） 08 資料収集・アイデアスケッチ 09~13 作品制作 14 作品制作・講評・作品提出 15 プレゼンテーション・講評・作品提出・制作ファイル提出 <鑄金領域（金属工芸）>：長谷川：課題【蠟型石膏埋没鑄造法による2課題を行う】 01 オリエンテーション・工房および工具使用説明 02~09 挽型による器物の制作 ・デザインワーク、鳥目箱による回転体の挽型、鑄型制作、熔解、剥き仕上、表面処理、着色、プレゼン・講評 10~15 蠟原型による銅鏡の制作 ・エスキース、塑造、石膏蠟型、蠟原型、鑄型制作、熔解、研磨・叩き仕上、プレゼン・講評 <鍛金領域（金属工芸）>：手銭：課題【鍛金技法の習得として2課題を行う】 ①鋳起・絞り技法の基本である回転体（花器）の作品制作。 銅素材（銅板）による回転体成形に於ける金属塑性等の理解と基本技法の習得。 01 講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具等の使用説明 工具制作・材料取り 02 実習 課題チェック～技法説明 作品制作 03~06 実習 技法説明 作品制作 07 講評・プレゼンテーション ②鍛金技法の展開として金属工作機械と接合技法による作品制作。 旋盤・銼紋り等の工作機械と電気・ガス溶接等の接合技法の理解と基本技術の習得。 08 講義 ②課題内容説明 工房及び工具・工作機械の使用説明

長岡造形大学 シラバス2020

	<p>09 演習 課題チェック～技法説明 作品制作 10~14 実習 技法説明 作品制作 15 講評・プレゼンテーション</p> <p>* 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、各自の制作ベースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。</p>
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 30%、成果物の内容 70%。これらを総合的に判断し、担当教員が評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	各ゼミで適宜指示する。
参考書・参考資料等	<p>各ゼミで適宜指示する。</p> <p>金属工芸系(鍛金・彫金・鋳金)は技術シリーズ「金工」(朝倉書店)・「金属の工作工芸」(開隆堂)・「鍛金の実際」(美術出版社)・「造形論/人間の視覚」(京都書院)・「金属の伝統技法」(理工学社)・「金工の着色技法」(理工学社)・「工芸家のための金属ノート」(アグネ技術センター)等を推薦する。</p>
用具	ゼミごとに指示する。また、作品制作時の材料費はもちろん必要となるが、各ゼミにて道具や工具の購入費用が必要となる。詳細は各ゼミ担当教員に確認すること。
履修制限等	前年度事前希望調査による。
履修希望者への要望・事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・素材や道具の扱いと技法の習熟に取り組むこと。 ・課題のテーマ・目的・条件を的確に把握し、各自が達成目標に到達すること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	ゼミⅡ〈美術・工芸学科〉
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、長谷川克義、藪内公美
授業の概要及びテーマ	ゼミⅠから引き続き美術・工芸学科に於ける各分野の研究室を継続選択し、各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門性をより深化した内容の課題制作・研究を行う。 この授業は、ゼミⅠで学んだ領域の授業内容を理解・習得した上で専門性や造形方法を応用・展開し、各自のテーマに沿った思考および制作プロセス、手法、問題点を探るものである。また、4年次での卒業研究、その後の進路を見据えた創作・研究基盤を養うものでもある。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各専門分野（領域）の沿革を理解することができる。 ・ 意欲を持ち課題に伴う表現材料のさらなる理解と手法・技法を応用および実践することができる。 ・ 各自が課題に際して適切な考察を行い、成果物に十分な完成度を求める事ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	<p>授業内容・進捗の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。</p> <p>< 絵画領域 > : 遠藤 01 ゼミ進行等概説 02 15 作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等） ・ ゼミⅠを発展させ研究を進め深めます。 ・ 期末公開講評会（グループ展示形式、ゲストによる講評）があります。 ・ 学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。 ・ スケジュール詳細は初回に説明します。</p> <p>< 版画領域（美術） > : 岡谷 01 ガイダンス、夏課題講評会 02 15 アクチュアルなテーマの文献講読と技法研究、遠藤ゼミとの合同授業 ・ 11月末 大学版画展に作品を出品します。 ・ 文献講読と各自のドローイング・個別研究指導・自主制作から、それぞれの研究テーマの発見を目指します。</p> <p>< 彫金領域（金属工芸） > : 菅野：課題【技法・表現・対外的視野・今後の方向性を踏まえ各自設定】 01 企業研究 02 14 伝統的表現、クラフト・ジュエリー、空間・造形的表現等において、各自が取り組むべく研究計画を作成し実践する。技法研究は平素の取組みとし、進捗の報告は適宜行う。 15 総括</p> <p>< 彫刻領域 > : 小林：課題【テーマに基づいた作品制作：各自の表現素材・材料と表現手段の研究】 01 概要講義／課題説明／テーマ・コンセプト決定／アイデアスケッチ・制作ノート作成 02 プレゼンテーション／マケット制作／扱う素材、道具の取り扱いについて／制作計画書作成 03 作品制作（各作品制作計画による進行）／制作計画書提出 04 09 作品制作（各作品制作計画による進行） 10 中間報告・講評／作品制作 11 13 作品制作（各作品制作計画による進行） 14 作品制作 仕上げ・展示方法の確認と準備 15 講評／作品・制作ノート提出</p> <p>< ガラス領域 > : 中村 01 概要講義・ディスカッション・課題説明（複合技法による器の制作） 02 資料収集・アイデアスケッチ 03 05 作品制作 06 作品制作・講評・作品提出 07 課題説明（各自テーマにての制作） 08 講義・ディスカッション 09 資料収集・アイデアスケッチ 10 12 作品制作 13 作品制作・講評・作品提出 14 課題説明（切子技法による作品制作） 15 プレゼンテーション・講評 / 作品・制作ファイルの提出</p> <p>< 鋳金領域（金属工芸） > : 長谷川：課題【蠟型石膏埋没鋳造法による2課題を行う】 01 03 ガイダンス、道具製作 04 09 塑造原型による自然物の模刻 ・ スケッチ、塑造による模刻、石膏蠟型、鋳型制作、熔解、叩き仕上げ、着色、プレゼン・講評 10 15 各自のテーマによる鋳金造形作品制作 ～技法等制作に関わる事は対象物により検討する～ プレゼン・講評 *各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。</p> <p>< 鍛金領域 > : 藪内：課題【鍛金技法による2課題を行う】 ①鍛金技法の応用課題として作品制作。 01 講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具の使用説明・工具制作・材料取り 02 実習 課題チェック～技法説明 作品制作 03 06 技法説明 作品制作 07 講評・プレゼンテーション ②自由研究 卒業研究への展開を考慮した研究と作品制作。</p>

長岡造形大学 シラバス2020

	<p>08 講義・実習 ②課題内容説明 09 実習 課題チェック～技法説明 作品制作 10~14 実習 技法説明 作品制作 15 講評・プレゼンテーション</p> <p>* 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、各自の制作ベースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。</p>
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 30%、成果物の内容 70%。これらを総合的に判断し、担当教員が評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイド同様。
テキスト(教科書)	各ゼミで適宜指示する。
参考書・参考資料等	<p>各ゼミで適宜指示する。</p> <p>金属工芸系(鍛金・彫金・鋳金)は技術シリーズ「金工」(朝倉書店)・「金属の工作工芸」(開隆堂)・「鍛金の実際」(美術出版社)・「造形論/人間の視覚」(京都書院)・「金属の伝統技法」(理工学社)・「金工の着色技法」(理工学社)・「工芸家のための金属ノート」(アグネ技術センター)等を推薦する。</p>
用具	ゼミごとに指示する。また、作品制作時に必要となる道具や工具の購入費用や材料費が必要となる。
履修制限等	前年度事前希望調査による。
履修希望者への要望・事前準備	・日常の観察姿勢と積極的な取り組みで、授業の「達成目標」に到達すること。
実務経験を活かした授業	

科目名	卒業研究Ⅰ〈美術・工芸学科〉
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、長谷川克義
授業の概要及びテーマ	これまで培ってきた造形力を基盤とした卒業研究の前半として、相応しい内容のテーマの立案から検討を行い、「制作」や「制作及び論文」又は「論文」の内容を見据えた技法実験、小作品の制作、研究を実践する。そして、後半の本制作の骨格となる成果を中間発表する。テーマの対象は、屋内・屋外の場とモノ（造形）の関係、人とモノ（造形）の関係を今日的視点から探求し、長期にわたるテーマの持続性、計画性をもとにした目標の達成が求められることとなる。また、個々に追求した専門領域の研究成果にとどまらず、異領域のコラボレーションを通じた新たな造形表現に取り組むことも可能である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ内容を絞り込むために沿革の資料収集～選択、スケッチ・モデルによる質疑応答、検討が適宜行える。 ・ 制作における素材の扱いと技法の効果を予測しイメージを視覚化できる。 ・ テーマに沿った制作技法の習得ができる。 ・ 卒業研究として適切な内容のコンセプトを立案し、中間発表をすることができる。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力／造形力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	各研究室より別途指示もあります。 01~04 テーマ・コンセプトに伴う資料収集・調査～分析・選択 05~08 テーマ・コンセプトの仮設定～制作方法の検討 09~12 スケッチ、モデルによる検討 スケジュール計画 13~16 素材と技法の検討、試作 17~22 試作～ 諸問題の解決 23 中間発表
成績評価基準	受講姿勢及び中間発表成果物 60%、プレゼンテーション評価 40%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	各研究室で設定する。
テキスト（教科書）	必要に応じて指示する。
参考書・参考資料等	各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。 各指導教員より適宜紹介や指示をする。
用具	各研究室で指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は連動したものであり長期に渡る研究となります。そして、各自のテーマからそれぞれの手法にて、段階ごとに具体的な成果を獲得していくものとなります。中間発表で終わりではないことを意識して邁進してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	卒業研究Ⅱ〈美術・工芸学科〉
学年	4
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、長谷川克義
授業の概要及びテーマ	卒業研究Ⅰを達成することで得た研究内容から最終的な卒業研究におけるコンセプトを設定し、その成果を「制作」や「制作及び論文」又は「論文」で提示する。制作においては、各自が実材による造形について研究を行う。論文においては、個々のテーマにそった考察を深め研究を行う。それぞれが卒業研究としてふさわしい高い成果の発表へ向けてアプローチするものである。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンセプトを踏まえて立案した内容を実現するために積極的に行動することが出来る。 ・ テーマに独自性と客観性を持つことが出来る。 ・ 造形における素材の扱いと技法の効果を関連づけられる。 ・ 論文で卒業研究を行う場合は、論として文章をまとめることが出来る。 ・ 自己の研究内容について理路を立て説明出来る。〈研究発表〉
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	各研究室より別途指示もあります。 01~08 中間発表に基づく内容の修正~制作 09~18 制作 19~22 最終調整~展示実施 23 研究発表
成績評価基準	受講姿勢と卒業研究成果物 80%、展示及びプレゼンテーション評価 20%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	各研究室で設定する。
テキスト(教科書)	必要に応じて指示する。
参考書・参考資料等	各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。 各指導教員より適宜紹介や指示をする。
用具	各研究室で指示する。
履修制限等	「卒業研究Ⅰ」の単位を修得していること。
履修希望者への要望・事前準備	卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられ、社会への一歩や進学へのステップとして重要な役割を持っています。長期計画に基づいたその成果として、最終発表には充実した研究と発表を期待しています。
実務経験を活かした授業	